

*LTSF滅菌のガイドラインへの 追加後における **低温滅菌の適正使用

*低温蒸気ホルムアルデヒド (LTSF) Low Temperature Steam and Formaldehyde
**医療現場における滅菌保証のガイドライン2015

日時 平成28年11月5日(土) 12:30~13:25

会場 第4会場
沖縄コンベンションセンター会議棟B
1F「会議場B5~B7」

司会

久田 友治 先生
琉球大学医学部附属病院
手術部 診療教授



演者

水谷 光 先生
大阪労災病院
中央手術部 第二部長・中央材料室長



LTSF滅菌のガイドラインへの追加後における低温滅菌の適正使用

大阪労災病院 中央手術部 第二部長・中央材料室長 水谷 光 先生

日本はEU諸国と比較して低温滅菌への依存度が高い国である。「医療現場における滅菌保証のガイドライン2015」において、低温蒸気ホルムアルデヒド（LTSF）滅菌が新たな選択肢として加わった。新たな低温滅菌法の選択肢増加は歓迎すべきことだが、それにより低温滅菌処理物品が増加することは、好ましい方向性とは言えない。現在の医療現場における「理想的な滅菌方法」に最も近いのは高圧蒸気滅菌である。低温滅菌はあくまで、高圧蒸気滅菌が選択できない時の「最後の選択肢」である。この大前提を確認した上で、医療現場における「低温滅菌の適正使用」について解説していきたい。

会場のご案内
第4会場
 沖縄コンベンションセンター会議棟B
 1F「会議場B5～B7」
 〒901-2224 沖縄県宜野湾市真志喜4丁目3-1

学会当日参加費
 会員・非会員：10,000円

ランチョンセミナー整理券のご案内

ランチョンセミナーは整理券制です。開催当日、ランチョンセミナー整理券配布所にて受付の上、会場にお越しください。

※整理券は、当日開催分のみ配布いたします。

※整理券は、ランチョンセミナー開始10分後に無効となります。



低温蒸気ホルムアルデヒド(LTSF)滅菌装置

LTSAFE[®]

エルティーセーフ[®]

LTSF滅菌

「医療現場における滅菌保証のガイドライン2015」に掲載された低温滅菌法

- 安全性** 密閉型のため特化則の適用を受けない
- 経済性** 過酸化水素法、EOG法と比較して大幅なコスト削減が可能
- 適合性** 耐真空性、耐水性を有する器械はEOGと同様に適合可能
- 浸透性** 低温蒸気的作用により、内腔器械への高い浸透性を示す

LTSAFE[®]エルティーセーフ[®]の特徴

- 1 LTSF滅菌に特化した専用設計**
 LTSF滅菌専用器として設計されているため、滅菌工程開始までの準備時間が短く、使いたい時にすぐに使用可能
- 2 ダイレクト・インジェクション・システム**
 2%のホルマリン溶液を使用し、薬液を希釈することなくチャンパー内に供給するため、濃度が安定し、滅菌工程を短くすることが可能
- 3 工程時間を大幅に短縮**
 標準60℃工程の場合、全工程は約190分(3時間10分)で完了するため、EOG滅菌と比較して大幅なスピードアップが可能